

(1)評価基準に沿った評価	2人	4人	0人	0人	0人	4.3
(2)記述評価						
・赤澤分担研究者の研究に関して:地道な研究であり、種々の他の研究データの解析の基礎となる重要なもので継続が必要である。 ・谷口主任研究者の研究に関して:レセプトによるマスデータであり、今後も継続が必要である。これで抽出されるBAが従来の疫学調査のBAとどう読みかえができるか検討を要する。 ・両研究の連結をいかにするかも検討課題としてもらいたい。 ・レセプトの活用モデルとして興味深いが、結果の解釈は容易にできない印象である。メタボ健診とは異なるフィールドでの検討で同様のDMやPPIと喘息の関係が得られるのであろうか。 ・長期経過と変動要因に関する研究で小児と成人に分けて進められている。 ・大変な研究と考えるが、全体としての統一性や一貫性が気になりである。今後も継続するなら、プライマリーエンドポイントやゴールをより明確にすることが望まれる。 ・本邦における小児・成人ぜん息の動向を見出す研究であり、今後の継続が望まれる。また本研究によって得られた知見が、「喘息死ゼロ」という目標達成に寄与することが期待される。 ・小児ぜん息部門については、小児ぜん息の予後調査として非常に重要なものであり、さらに継続すべきものと考えられる。 ・成人ぜん息部門については、研究期間等の制約があり、独自データの収集困難であるため、レセプトデータを利用した解析は適切なものと考えられる。関連するビッグデータについても全国のレセプトデータを利用など、他のデータベースを用いた検討も必要と考えられる。						